

デズデ 貴郎の妻ぢや、あなたの貞實な妻ぢや。

オセロ さ、誓言して地獄に落ち。さもないと面が天人のやうぢやによつて、夜叉や悪魔も汝を能う捉へぬかも知れぬ。ぢやによつて二重の墮獄罪を犯しをれ、貞實ぢやと誓言しをつて。

デズデ それは天が御存じぢや。

オセロ 天は御存じぢや、汝が不義を働いてをることを。

デズデ (起上りて) え、不義とは？ 誰れに？ 誰れと？ 妾が不義をどうして？

オセロ (面を掩うて) おゝ、デズデモーナ！ あちへ！ あちへ！

デズデモーナの立寄るを排斥けて泣く。

デズデ あゝまあ！ なんで貴郎はお泣きなされるのぢや？ 其涙は妾が原でござ

りますかえ？ 若し今度のお召返しを父の爲業ぢやと疑うてなら、それを妾の咎にして下さりますな。 貴郎が父と縁を切つてしまうてなら、妾も縁

切つてしまひました。

オセロ 天が若し艱難辛苦を以て予を試みさせられたならば、ある限りの恥辱や苦

痛を此素頭へ注ぎかけ、貧苦の淵に唇際まで身を浸らせ、我身をも大切な我望をも奴隸の境涯におとしいらいてしまはせられたのなら……まだしも魂の何處かに一滴程の忍耐が残らうものを……あさましたや、いつまでも〱世の嘲りに指ささるゝあさましい的となるといふは！ とはいへそれとても尙忍ばう、堪忍もせう、十分に、十二分に。なれども我大切な心を秘めおく寶藏命の流れの湧くも涸るゝもそれ一つで定まる泉、そこに居れば命延はり、そこを離るれば死なねばならぬ源から、其泉から追はるとは！ さなくば其泉をばあの穢はしい蝦蟇を交尾ませ孕する水溜にせにやならぬとは！……おゝ、忍耐よ、若々しい薔薇唇の天童よ、今こそ汝の色をも變へい、今こそ夜叉のやうにも見えい！

デズデ よもや妾の貞實を疑うてござるのではあるまいなあり。

オセロ お、貞實ぢや！肉店に群つて卵を産る最中にも交尾みせる夏蠅のやうに貞實ぢや。お、汝は毒草ぢや、色といひ、香りといひ、美しうて、いとらしうて、目も鼻も痛うなるほど。え、おのれ、生れて來をらなんだらなあ！

デズデ 悲しや、自身で知らぬ何様な罪惡を犯したやら！

オセロ え、此白い紙は、此立派な書物は、上へ「淫婦」と書かうために製られたか！何を犯した？ 犯したとも！ お、おのれ賣淫婦め！ 予の頬が鍛

冶場のやうになつて廉恥心が灰となつてしまふわい、汝の惡事を口外したなら。何を犯したと？ 天もこれが爲に鼻を掩ひ、月も目を塞ぎ、出逢ふ何でもを舐め廻す多情しい風さへも洞穴に隠れ潜んでそれを聞くまいと思ふ程ぢやに。何を犯したと？ 鐵面皮の賣淫婦め！

デズデ ほんに、それはあんまりでござります。

オセロ では賣女ではないといふのか？

デズデ 妾は基督信者でござります。夫の爲に此體を假にも汚さぬやう、道ならぬものに觸れぬやうにすることが賣女とやらでないならば、決して賣女ではござりませぬ。

オセロ え、では賣女ではないのか？

デズデ はい、救はるゝ身ぢやによつて。

オセロ あらうことか？

デズデ お、天よ、救させられませい！

オセロ なれば詢に濟まなんだわい、予は其方をばオセローと結婚しをつた彼の狡猾いエニスの賣女と取違へた。(奥にむかつて)おい、内儀、ピーター上人とは反對な方角の門番をする内儀！

デズテモーナ泣き倒れる。

エミリヤ又出る。

おぬし、おぬし、さうぢや、おぬしぢや！ 予等の用は濟んだ。さ、これが骨折料ぢや。どうぞなあ錠を下いて、黙つてゐてくれい。

財布をエミリヤの前へ抛出して入る。

エミリ あらまあ、何を思つてござらつしやるのであらう？……(デズテモーナに)どうなされました？ え、どうなされました、奥さま？

デズテ 半分夢を見てゐるのぢや。

エミリ 奥さま、どうなされたのでござります殿さまは？

デズテ だれが？

エミリ はて、殿さまがでござります。

デズテ たれぢや殿さまとは？

エミリ あなたの殿さまでござります。

デズテ 妾には殿御は無い。物を言うてたもんな。泣くことも出来ねば返事も出来ぬ、たゞ涙が出るばかりぢや。……どうぞ今夜は妾の寢床へ婚禮の時のあの敷布を掛けてたもれ。よいかや。さうして其方の夫を呼んでたも。

エミリ こりやまあとんでもないことになつた！

エミリヤ入る。

デズテ 當然ぢや、このやうに扱はるゝは眞に當然な事ぢや。どのやうな事をしたのぢややら、假令ば妾に些少ばかりの悪いことがあつたりやとて、そつとでも腹を立たしやるとは？

デズテモーナ泣いてゐる。エミリヤと共にイヤゴー出る。

イヤゴ 何ぞ御用でござりますか？……どうなされました？

デズテ 妾には言はれぬ。幼い兒を教へる人は物やさしう容易い事から始めるも

のぢや。叱らしやるにせい、さう爲たが當然ぢやに。ほんたうに妾や叱らるれば只の子供ぢやもの。

イヤゴ どうしたのでござりますか？

エミリ ほんになあイヤゴーどの、殿さまは奥さまを女郎扱ひにして、それはく眞實な人が聽いてをられぬやうな悪口雑言を言はつしやりましたぞえ。

デズデ イヤゴー、妾がそんな名の女であらうか？

イヤゴ どんな名でござりますか？

デズデ エミリヤが今言うた我夫が呼ばしやつたやうな。

エミリ 賣淫婦ぢやと言はつしやりました。酒に酔うた乞食ぢやとて、あのやうなことをば其配偶には言はぬものぢや。

イヤゴ どうしてそんなことを？

デズデ それは知らぬけれど、妾や決してそんなものではない。

イヤゴ お泣きなされますな、お泣きなされますな。……やれく……

エミリ お立派な縁談をも、父御さまをも、お國をも、御親友をもむざくお棄てなされたかいの、賣淫婦ぢやなぞと悪口されうために？ これが泣かいでをられうかいな？

デズデ あさましい運命ぢや。

イヤゴ 呆れ返つた事ぢや、どうしてそんな氣にならつしやつたか？

デズデ 天は知つてござらうけれど。

エミリ きつとく、或根こそげ悪い奴めが、餘計なお節介な奸計をしをる虚言家めが、何ぞの徳にせうために、奥さまを讒言しをつたに相違ない、それが間違うたら絞罪にあうてもかまはぬ。

イヤゴ 馬鹿な、そんな奴があらうかい、あらう筈が無い。

デズデ そのやうな者があらうとも、天よ赦させられませい。

エミリ はて、首縊繩よ、赦させられませいちや！ そのやうな奴の骨は地獄の鬼に嚙碎かれたがよい！ なんで賣淫婦なぞと呼ばつしやるのぢや？ 誰れが奥さまと交際うた？ 何處で？ 何時？ 如何な風に？ 何様な證據がある？……きつとムーアどのは欺されてござる、どこかの悪黨に、どえらい悪黨に、怖しい悪い奴に。 お、神さま、さういふ奴をお示し下さいまして、あらゆる善人の手に笞を持たせて、其悪者を赤裸々にして、ぶつてぶつてぶちのめいて、世界中を追廻して下されませ、東の端から西の端まで！

イヤゴ 外へ聞えるわい。

エミリ お、畜生めが！……(イヤゴに) お前の分別を引つくらかへして妾とムーアさまが異しいなんぞとお前に思はせたお方さまも、きつとそんな奴に相違ない！

イヤゴ 何を馬鹿なことを。

デステ お、イヤゴーどの、殿御の機嫌をなほすには何としたらよからう？ 夫の所へ往てさういうて下され、此天の光明かけて、如何して機嫌を損ねたのやら、妾や夢にも知らぬ。……かう跪坐して(と跪坐して)……萬一にも夫の愛に背きまして不埒を働きますやうならば、胸の中にてなり、行爲にてなり、又は目なり、耳なり、どの感覺なりが我夫ならぬ人の姿を喜びまするやうならば、又は現に我夫をいとしう思はず、又は前々に一度たりともいとしう思つてをらなんだことがあつたり、又は此後……假令夫が卑妾を乞食のやうに離縁して振棄てしまひませうとも……いとしう思ひませぬやうなことがあらば、悉く快樂をば奪はせたまへ！……おそろしいは邪慳の力、夫の邪慳には此命も盡う、けれども可愛しいと思ふ心は變らぬ。妾や「賣淫婦」とは能う言はぬ。其語を言うてさへ身が慄然するもの、そのやうな

名を附けらるゝ事が、世界一ぱいの晴衣裳が貰はるゝからとて出来うかいの。

デズデモーナ打伏して泣く。イヤゴ介抱する。

イヤゴ まゝ、お心をお鎮めなされませ。つい一時の御機嫌ぢや。政事向の事が

お氣に障つたので、それで八當りをなさるのでござります。

デズデ 若しさうばかりならよけれど……

イヤゴ 大丈夫、それぎりでござります。

奥にて喇叭の聲

やあれは夕食を知らせの喇叭ぢや！ エニスのお使者たちが饗應を待つてござらつしやる。さ、奥へ、お泣きなされますな。今に首尾ようなりませう。

デズデモーナとエミリヤと入る。

ロデリゴー出る。

や、ロデリゴー！

ロデリ おぬしの予への仕向はあんまりぢやと思ふ。

イヤゴ あんまりとは？

ロデリ 毎日何とか言ひぬけて延いておくといふよりは、予が今思ふには、予に望を遂げさせうとするよりは遂げさすまい〜とお爲やつてのやうぢや。

もう〜予や堪忍が出来ぬ、今日まで阿呆らしい目に逢うたのも其儘には濟さぬ積りぢや。

イヤゴ ロデリゴー、まあ〜身共の言ふことを聞いた。

ロデリ いゝや、もう聞き過ぎた、おぬしの口と爲る事とは全然別々ぢやによつて。

イヤゴ これはまたあんまりの被言りやうぢや。

ロデリ あんまりにせい、眞のことぢや。予は貯蓄も消費してしまつた。デズデ

モーナへ渡すというておぬしが持つてゆかしやれただけの寶石類があつたら、尼御でも大概墮ちる頃ぢやに。女がそれを受取つて、すぐにも嬉しい逢瀬を約束したやうに被言つたが、いまだにさうはならぬ。

イヤゴ えいさ、ま、えいわさ。

ロデリ えいさ！ まゝ！ まゝでは濟まぬ。決してえいさでない。いゝや、あ

んまり酷いわい、こりや予や欺されたのぢやな。

イヤゴ ま、えいさ。

ロデリ えいさで無いと言ふに。予は此通りをデズデモーナに逢うて言ふ、若し寶石を逃いてくれゝば、予は最早申込を止めて、道ならぬ戀をしたと後悔をせうけれども、あれが戻らぬ時は、辨償はおぬしから貰ひますぞよ。

イヤゴ や、立派に申された。

ロデリ 口ばかりぢやないぞよ、其通りにする積りぢや。

イヤゴ はて、それでこそ男らしい、かういふ今から卿を今までよりもすつと立優つた人ぢやと思ふ。……ロデリゴ、手を、手を。(と握手して) 予を怨ましやるのは道理ぢや、が、あくまでも予は此事については正直に骨を折つたのぢや。

ロデリ さうは見えなんだ。

イヤゴ 成程、見えなんだでもあらう、貴郎の疑念は道理が無いではない。しかしロデリゴ、若し卿に何があるなら、以前とは違ひ、今は有ると思ふのぢやが、といふのは勇氣ぢや、其勇氣を今夜予に見せさつしやれ。若し翌の晩にデズデモーナが手に入らなんだら、人を陥れた罪で予の命を取らつしやるがよい、どんな怖しい機械なりと工夫して。

ロデリ さて、そりや何様な事ぢや？ 道理に叶うたことか？

イヤゴ エニスからわざくの使者があつて、キャシオがオセローに代ることにな

つた。

ロ德里 眞實か？ はて、すればオセローもデズデモーナもエニスへ歸るのぢやな。

イヤゴ いや、さうでない。ムーアはモリタニヤへ往くのぢや、あの美しいデズデモーナをも伴れて、こゝに留まつてゐねばならぬやうな何か事件が起らんければ。ところで足をとめるにはキャシオめをかたづけるに限る。

ロ德里 かたづけると被言るのは？

イヤゴ はて、オセローの代理になれぬやうにするのぢや、彼奴の脳天を叩きみじいて。

ロ德里 さうしてそれを予に爲いと被言るかり。

イヤゴ さうちや、若し貴郎に自己が利益になることをしてのける勇氣があるなら、彼奴は今夜賣女の家で夜食をする、そこへ身共も參る。彼奴はまだ自己が

昇進したことを知らんでゐる。あそこから歸るのを……それは十二時と一時の間であるやうに予が計らふ……見張つてゐれば、やつづけるのはお心任せぢや。予も近くにゐて助太刀をしようから、つい狹討になるであらう。さう、そんな顔をして立つてをらいで、一しよにござれ。彼奴を殺さぬやならぬ理由を改めて話さう、成程と思はつしやるやうに。もうたつぶり夕食時ぢや、夜がすんく更ける。さう。

ロ德里 もつと理由を聴きたい。

イヤゴ 聴かしやつたら、成程と思はしやるであらう。

二人とも入る。

第三場 城内の他の一室。

オセロー、ロドギコー、デズデモーナ、エミリヤ 井びに 従者ら 出る。

ロド井 どうか、取巻おかまひ下さるな。

オセロ いや、慮外ながら、歩くのは勝手でごさる。

ロド井 奥方、お寝みなされい、千萬かたじけなうござつた。

デズデ ほんにようこそお入りなされました。

オセロ さ、歩きませう！……おゝ……デズデモーナ……

デズデ えゝ？

オセロ すぐに寝まつしやれ、やがて戻つて参る。傍の者を退げて。ようござるか？

デズデ 心得ました。

オセロー、ロドギコー 井びに 従者ら 入る。

エミリ どのよでござりますえ？ 最前よりはおやさしう見えまする。

デズデ すぐに戻つて来うと言つてぢや。其方を退らいて床へ入つてゐいと御命令ぢや。

エミリ わたくしを退らいて！

デズデ さういふお吩咐ぢや。ぢやによつて、エミリヤ、妾の寝衣を持つて来ておいて休みや。お氣に逆うてはならぬ。

エミリ ほんにあのやうな方にお逢ひなさらなんだらなあ！

デズデ 妾やさうは思はぬ。いとしう思ふ心には無情いのも叱らるゝのも怖い顔も……針を外いてたも……みんなよいやうに見ゆる。

エミリ おつしやりつけの敷布はお床へ掛けておきました。

デステ 同じことぢや。ほんに人間は何たる阿呆らしいものぢや！ 若しそなたよりも前に死んだら、どうぞ其の敷布の一枚で包んでたも。

エミリ はれま、たはいもないことを！

デステ わしの母さまの腰元にバーバラといふ女があつたが、いとしう思つてゐた。郎が氣が狂うてバーバラをばすてしまつた。彼女が日ごろ口癖にしてゐやつた柳の歌、古い歌ぢやが、それが彼女の運命をよう寫してをる、其歌を唱ひながらバーバラは死にやつた。今宵はあの歌が忘れられまい。かた／＼へ首うなだれてバーバラのやうにあの歌を唱はいで済ます譯にはゆかぬ。……はやうしてたも。

エミリ 夜のお召物を取つて参りませうか？

デステ いゝえ、此針を引いて。……あのロドギョーどのは立派な人ぢやなあ。

エミリ ほんに好い殿御でござります。

デステ 辯もよい。

エミリ エニスのおさるお方は、彼の方の唇に觸れらるゝなら、バレストインまで跣足参詣をせうと言つてゝござりました。

デステ (歌ふ)

あはれ娘はシカモアの蔭に、

歌へ、柳柳青やぎ！

胸にや手をあて、膝には頭、

歌へ、柳柳青やぎ！

傍の小川も共音に鳴いて、

柳柳青やぎ！

落す涙にや石さへ和む、

上被を脱ぎながら。

これをそつちへ……(又歌ふ)

柳柳、青やぎ!

さ、早う、もう直見えう程に……

又歌ふ。

歌へ、青柳や、此身の挿し。

主にや咎ない、身をこそ怨め、……

いやしく、さうではない。……や! 戸を叩くのは誰れぢや?

エミリ ありや風でござります。

デステ (又歌ふ)

主を浮氣と譴めたりや主が、

柳柳、青やぎ!

餘所の女子と慇懃したら

餘所の男と寝やれと被言る。……

さ、退りや。さよなら。……目が痒い。泣く前兆かいの?

エミリ 何でもないのでござります。

デステ でもさう言ふぞや。……お、男といふものは、男といふものは! 誓文、そ

なたは如何思ふぞ? ……これ、エミリヤ、……世の中にそんなあさましい事

をして夫に恥をかゝす女があらうか?

エミリ ござりませうとも随分。

デステ 世界かけて、そなた其様なことを爲ようでな?

エミリ え、あなたはなさりませぬかえ?

デステ 神さまも御覽なされ、決して。

エミリ わたくしぢやとて神さまの前では……暗いところでなら随分。

デステ え、全世界賭けて、そなた其様なことをする氣か?

エミリ 世界と言へば大きな物でござります、少とばかり悪い事を爲ればとて、世界が貫はるれば。

デステ 誓文、そなたは爲やすまいに。

エミリ 誓文、致しませうとも。爲ておいて又止めればようござります。はて、わたくしちやとて、合せ指輪の一つや薄絹の三四尺や上被や袴や帽子やなんぞ些屑物と取換では致しませぬ。したが全世界……はて、亭主を王さまにする事が出来れば、誰れちやとて間男位はしますわいな。さうなれば地獄へ墮うともかまやませぬ。

デステ 身をも呪へ、若し妾が、全世界かけて、假にも其様な事をしたら。

エミリ はて、悪いといふは只此世界で悪いのでござります。すれば骨折料に此世界が貴女の者になれば、おのが世界での悪い事ちやによつて、御自身で如何とも善いやうになりませうわいな。

デステ そのやうな女があらうとは思はぬ。

エミリ ござりますとも、ダースほども。

そこどころでない、生んだ兒で其賭物の世界を一ぱいにします程も。したが女房の不埒は、所詮亭主の罪でござります。例へば、爲べき事をばせいで、餘所の前垂へ寶を注込み、途方もない邪推の嫉妬をして罵きたて、妾どもに窮屈な思ひをさせ、又は撲打擲をしたり、胸氣に小使錢を減いたり何か



しをれば、はて妾どもぢやとて蟲がござります、柔しい心も有つて居れど返報をせうとする意地もある。女房も男と同じ感じを有つてゐるといふことを亭主も知るがよい。女房ぢやとて見もする、嗅ぎもする、甘い酸いを食べわける舌は亭主と同じぢや。何で男は妾たちを他の女に見かへるのぢや？ 道樂か？ さうでもあらう。好いた惚れたが原か？ さうでもあらう。さういふことをするのは痴情か？ さうもある。はて妾たちぢやとて好いたり惚れたりもする、道樂もしてほしい、男同様な痴情が無うてかいな！ すれば些と妾たちを大事にしたがよい、さうでない、女が悪い事をするのは、男が悪い事をして教へるのぢやと思ひ知らせう。お寢み、お寢み、天よ、習慣をお授け下され、悪い事を見聞しても悪い事を習はいで身の足はぬを矯しますやう。

二人とも入る。

デステ



第五幕

第一場 サイブラス。街上。

イヤゴーとロテリゴーと出る。

イヤゴ こりや、此蔭このかげに立つてござれ、直すに來こう。細刃はそみの鞘さやを拂はらつておいて、しつかりやつたり。早はやうく。びくつくには及およばぬ、身共みどもが附ついてゐる。成なるか成ならぬかはこれで定きまる、それを思おもうて確たと腹はらを据するさつしやれ。

ロテリ すぐ傍そばに居かておくりやれ、やりそこなふかも知しれぬ。

イヤゴ すぐこゝにゐる。大膽だいだんに構かまへてござれ。

イヤゴー入はいる。

ロテリ (獨自あんま) かういふ事は餘あまり好このもしうもなければ、彼仁あのじんの言いうたことも道理もつともぢや。たかゞ人ひとを一人ひとりなうするまでぢや。劍けんよ、出でて、彼奴あいつの命いのちは貰もらうた。

イヤゴ (獨自ふきでものやう) 腫物ふきでもの野郎やろうを摩こりこくつてくれたら、大ぶ熱あつうなりをつた。さて彼奴あいつがキャシオを殺ころさうと、キャシオが彼奴あいつを殺ころさうと、互たがひに殺ころしあはうと、どのみち乃公おれの利分りぶんぢや。ロテリゴーめが生いきてをれば、デズデモーナへ遣やると言いうて彼奴あいつから騙取ごちやまかいておいた夥多おびただしい金銀きんぎんや寶石ほうせきをば償まどへと言いひをる。……そりやならぬわ。……若もしキャシオめが生いき残のこれば、いつも彼奴あいつの端嚴りつはさで乃公おれの爲する事ことが醜みにくく見みえる、のみならず、ムーアめが乃公おれの言いうたことを彼奴あいつに打明うちあけまいものでもない、すると大分だいぶん危険きけんになる。いや、彼奴あいつを生いいてはおかれぬ。……や、まてよ、來きをつたやうぢや。

キャシオ出る。

ロ德里 足つきに覚えがある、彼奴ぢや。……(前へ出て)おのれ、命は貰うた!

キャシオを突く。

キャシ 其一突で、あぶなく命を失うたわい、着込がもう少し脆かつたら。汝のを

試してくれう。

劍を抜いてロ德里ーゴを突く。

ロ德里 おゝ、やられた!

此時イヤゴー背後よりキャシオの脚を刺して入る。

キャシ 一生不具者となつてしまつた。……助けてくれい! 人殺し! 人殺し!

キャシオ倒れる。

オセロー出る。

オセロ (傍白)キャシオの聲ぢや、イヤゴーが約を遂げたな。

ロ德里 (倒れたまゝにて)おゝ、悪い事をしたわい!

オセロ (傍白)果してさうぢや。

キャシ おゝ、助けてくれい! 炬火を、

醫者を!

オセロ (傍白)彼奴ぢや。……おゝ、勇敢な、

忠義なイヤゴー、それほどまでに

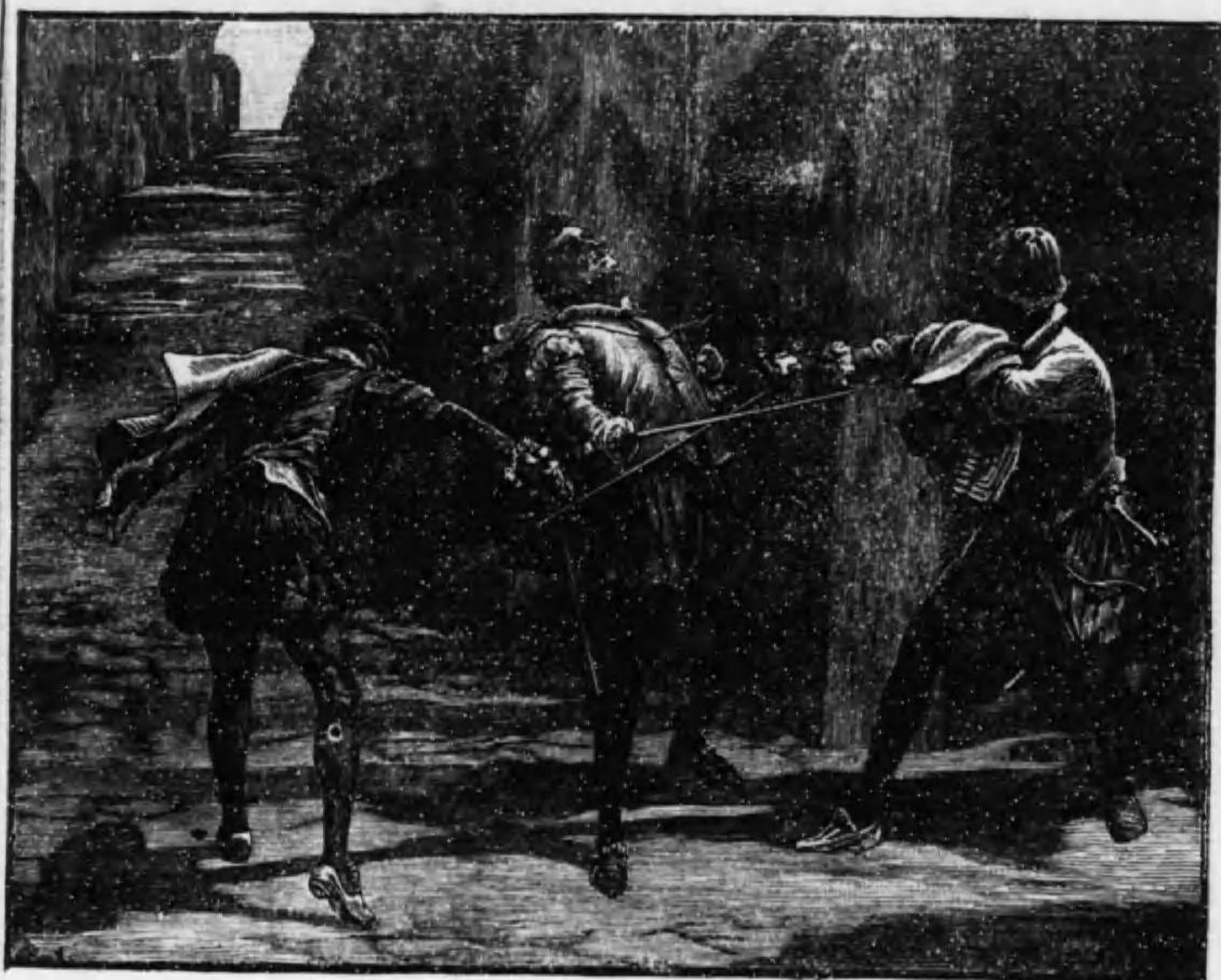
子の恥辱を思うてくれたか

! 教を受けたぞ。……賣女め、

姦夫は已に死んだ 其方の非運

も目前ぢや、淫婦め、待つてを

らう。汝が目の妖術も我心か



ら消えてしまつた、邪淫で汚しをつた汝の床を汚れた血汐で染めてくれう。

オセロー入る。

ロド井コーとクラシヤノーと出る。

キヤシ

やあ〜！ 夜番はをらぬか？ 通行人はないか？ 人殺し！ 人殺し！

クラシ

こりや何か珍事でござる、けた〜ましい叫び聲ぢや。

キヤシ

お、助けてくれい！

ロド井

や〜！

ロデリ

お、あさましいわい！

ロド井

二三人の唸き聲ぢや。すごい晩ぢや。おびきよするののかも知れぬ、もつと人が参つてからでなうてはあぶなうござる。

ロデリ

だれも来てくれぬか？ すれば血がとまらいで死んでしまはう。

ロド井

や〜！

イヤゴー 炬火を持ち出て出る。

クラシ

あそこへ下着一枚で炬火と武器を携へた者が参る。

イヤゴ

誰れぢや、そこにあるは？ 人殺し〜と呼ぶるのは誰れぢや？

ロド井

予たちは知らぬ。

イヤゴ

呼ぶるのをば聞かしやらなんだか？

キヤシ

こゝぢや〜！ どうぞ助けてくれい！

イヤゴ

や、どうしたのぢや？

クラシ

あれはたしかオセローの旗係でござる。

ロド井

いかにもさやうぢや、あの勇敢な。

イヤゴ

悲しさにそこで呼ばつてござるのは誰れぢや？

キヤシ

イヤゴー？ お、手を負うた、悪者めにやられた！ 助けてくれい。

イヤゴ

やれ〜、副官どのか！ どうした悪黨めの所業ぢや？

キャシ 一人は多分其邊にゐよう、能う逃げなんだ筈ぢや。

イヤゴ おゝ憎い奴め！……(ロドギコーとグラシヤノーに)そこにござるは何人ぢや？

こゝへ来て手助けをして下され。

ロデリ おゝ予をも助けてくれい！

キャシ あれが其一人ぢや。

イヤゴ おゝ人殺しめ！ おゝ悪黨め！

走りよつてロデリを刺す。

ロデリ おゝ極悪人のイヤゴ！ おゝ犬畜生！

イヤゴ 人を暗撃にしをるとは！……どこへ行きをつたか其悪黨どもは？ どうして斯う鎮り返つてゐるのぢや市は？……やあ〜！ 人殺しぢや！

人殺しぢや！……(ロドギコーらに)こなたゝちは何人ぢや？ 敵か身方か？

手證を見た上で評をせられい。

ロドギ 手證を見た上で評をせられい。

イヤゴ ロドギコーさま？

ロドギ いかにも。

イヤゴ 眞平御免なされ。悪者の爲にキャシオが手を負うてござる。

グラシ キャシオが？

イヤゴ 兄貴、どうなされた？

キャシ 脚を眞二つにやられた。

イヤゴ やれ、とんだ事ぢや。……かたぐ、炬火を。下着でそれを縛りませう。

ピヤンカ出る。

ピヤン どうしたのぢやえ？ わめいたのは誰れぢやえ？

イヤゴ わめいたのは誰れぢやえ！

此内ピヤンカはキャシオに目を附けて走りよる。

ピヤン おゝいとしいキャシオどの！ 大事の〜キャシオどの！ おゝキャシオ。

キャシオ、キャシオ！

イヤゴ お、例の賣女めぢやな！……キャシオどの、お手前に手を負はいた奴に心當りがござるか？

キャシ い、や。

グラス さて、笑止なことぢや、足下をたづねて参つたのに。

イヤゴ 脚絆の紐をお貸し下され。そ、。お、椅子がほしいなあ、容易う擔いでゆくために。

ビヤン あ、悲しや、息が絶ゆる！ お、キャシオどの、キャシオどの！

イヤゴ かた、身共は彼奴めが此曲事の同類ではないかと疑ひます。……キャシオどの、ま、暫く引耐へてござれ。さ、炬火を貸しやれ。……（ロデリゴの傍に立寄りて）これは知つた顔か、さうでないか？……あ、こりや身共の友人の、同國人のロデリゴぢや！ いや……たしかにさうぢや。……はれ

やれ！ ロデリゴぢや。

グラス 何、エニスのこと？

イヤゴ 全く彼れでござります。お知合でござりましたか？

グラス 知合！ 如何にも。

イヤゴ グラシヤノ、さまか？ これは、失禮千萬。かやうな珍事ゆゑにお見

それ申して相済みませぬ。

グラス お目にかゝつて重疊でござる。

イヤゴ 何とぢや、キャシオどの？……お、椅子を、椅子を。

グラス ロデリゴぢやな！

イヤゴ 彼れで、全く彼れでござります。

此内従者椅子を持来る。

お、けつこう、椅子を。誰れか大切に擔いで行つてくだされ、身共は

將軍の侍醫を呼んで來う。……(ビヤンカに)姉御、其骨折は止めたがえい。……
キャシオどの、こゝに殺されてゐる男は、身共の親友でござつたのぢやが、
お手前に對して如何した遺恨があつたのでござる？
遺恨のあらう筈がない、逢うたこともない。

イヤゴ (ビヤンカに)や、蒼白な顔をしておるやるの？……おゝ、あちへ擔いで行つた
り。

キャシオとロデリゴとを椅子に載せて擔き去る。

かた／＼、暫くお待ち下され。……(ビヤンカに)蒼白な顔をしておるやるの！……
……(クラシヤノーちに)あの女の目附の凄いのを御覽なされたか？……(ビヤンカ
に)いや、おぬしがそんな目附をしても、今に物を言はせて見せう。……(クラ
シヤノーちに)ようあれを御覽なされ。ようお目をとめられませい。かたが
た如何でござりますな？ いや、悪い事はおのづから物を言ひませう、舌

を使はいでも。

エミリヤ出る。

エミリ はれま、どうしたのぢや？ こちの人、こりやま如何した事ぢや？

イヤゴ キャシオが、こゝでロデリゴと逃げた奴とに闇撃に逢はうとしたのぢや。
あぶなく殺さるゝ所であつた。ロデリゴは死んだ。

エミリ はれま、あのお方がや！ はれま、キャシオさまがや！
イヤゴ こりや賣女買の應報ぢや。エミリヤ、頼みぢや、今夜何を何處でしたか
キャシオに聽いて來てくれ。……(ビヤンカに)や、今のを聽いて慄へておるやる
の？

ビヤン あの方は妾の宅で夜食をなされたが、それで妾が慄へるのではない。

イヤゴ おゝおぬしの宅で？ すれば引立つるから、一しよに來う。

エミリ けがらはしい、おゝ、穢はしい淫賣婦！

ビヤン 妾や淫賣婦ではない、さういふ悪口を被言るお前がたと何のかはりもない
正当な女ぢや。

エミリ かはりのない！ お、穢はしい〜！

イヤゴ かた〜 あちへ参つてキャシオどの、手當を致しませう。……（ビヤンカに）姉
御、別におぬしに聴きたいことがあるから、一しよにおじやれ。……エミリヤ、
岩まで駆けていつて此事を殿と奥方とに告げてくれい。……（グラシヤノーらに）
先づ入らせられい。……（傍白）成るか成らぬかは今夜が界ぢや。

皆々入る。

第二場 城内の寢室。

テズテモーナ床の上に眠つぬる。その傍に燭火。オセロー出る。

オセロ これが爲ぢやわい、これが爲ぢやわい……汝、清き星よ、この事を言はせて
くれるな！……これが爲ぢやわい。とはいへ彼女の血は流すまいぞ、まつ
た雪よりも白い、雪花石よりも滑かな彼女の肌膚には傷をつけまい。とは
いへ生いてはおかれぬわい 生いておいたなら、又も男をおとしいれをる
であらう。燭火を消いて、それから此燭火を消すのぢや。汝、燃る奴僕よ
汝は消いたとても 又元の通りになることが出来る、惜いことをしたと思
へば。さりながら一たび汝の燭火を消す時は、汝、巧を盡いて造られた微
妙い造化の傑作、何處に又と其光明を燃立たすべきプロミシウスの火があ
らうぞ？ 一旦摘取つてしまつた時には、又と薔薇を咲かすことは出来ぬ。
きつと萎れてしまふ。枝に在るうちに香氣を嗅がう。

デズデモーナに接吻する。

あゝ、かんばしい息ぢや、正義の神とてもこれが爲には劍を折らう！ も一度、も一度……死んでからも此様でゐい、すれば殺いておいて可愛がらう。もう一度、そして最早これで最後ぢや、このやうに可愛らしうて、此様に怖しい奴が又とあらうか？ …泣かすにはをられぬわい。しかし此涙は酷い涙ぢや、いや、此涙は神聖な涙ぢや、かはゆい故に打擲するのぢや。……目を覺すわ。

デズデ たれぢや？ オセローどのか？

オセロ さうぢや、デズデモーナ。

デズデ まだお寝らぬかえり。

オセロ デズデモーナ、今夜の祈禱は濟んだか？

デズデ はい、すましました。

オセロ 若し天のお慈悲がまだ能う乞うてない犯罪があるなら、急いで願うたがよい。

デズデ あれまあ、何でそのやうなことを！

オセロ はて、早うそれをせい。予は歩いてゐよう。覺悟の出來てゐぬ者を殺したうない。いや、決して！ 魂ひは殺したうない。

デズデ え、殺すとえり？

オセロ さうぢや。

デズデ では、天帝さま、どうぞ助けて下さりませ。

オセロ アーメン！ 何卒！

デズデ さうおつしやるやうでは、よも殺しはなさるまい。

オセロ ふゝむ。

デズデ けれど怖い！ さういふ風に目をぎよろつかしてござる時は怖しいをな



さりかねぬ。何故怖いのやら分らぬけれど、悪い事をしたとは思はぬによつて。けれどもどうやら怖らしい。

オセロ 自己の罪を思へ。

デズデ 貴郎を思ふ心の外には罪とはありやせぬ。

オセロ さうぢや、それゆゑに殺すのぢや。

デズデ そりや非道ぢや、いとしう思うてゐる者を殺すとは。あれま、何で其様に下唇を噛まつしやりますか？ 何か酷い怖しい事を思ひ立つてぢやな、それが前表ぢや。けれども、よもや、妾を殺すのではあるまい。

オセロ しつ、しづかにせい！

デズデ はい。ま、どうしたのでござります！

オセロ 予が大切にしておいて、汝に遣いたあのハンケチを、汝はキャシオに與れたな？

デズデ いえ、命をも魂ひをもかけて！ あの仁を呼びにやつて訊うて下され。
 オセロ こりや、氣を附けい、偽りの誓言をすまいぞよ。 汝は今最期の床の上にあるのぢや。

デズデ でもまだ死ぬるのではない。

オセロ いや、直に死ぬるのぢや。 ぢやによつて残らず罪惡を白状せい、一々誓言して否んでも、子を唸き苦ませる其信念をば除くことも鎮めることも出来ぬわい。 汝の命は無い。

デズデ では、神さま、どうぞお慈悲を垂れて下されませ！

オセロ アーメン！ 何卒！

デズデ では尙慈悲心を有つてござるか！ 妾や貴郎に曾ぞく不埒をした覚えはない、キャシオどのを愛したと言つても、天が表向に許さつしやるやうな風に愛したのぢや。 曾ぞ物なんぞ與りはせぬ。

オセロ いや、彼奴がハンケチを持つてをるのを予が見た。 お、汝偽りの誓ひをしをるな！ おのれ、予の心を石となし、犠牲とも思つてゐた事を虐殺と呼ばせうでな。 あのハンケチを予が見たわ。
 デズデ ではそれは、拾うたのぢや、妾は與りはせぬ。 呼びにやつて眞實の事を言はせて下され。

オセロ もうそれは言うてしまつた。

デズデ え、何と言つたのでござりますか？

オセロ 汝と通じたと。

デズデ え？ どう？ 不義密通を？

オセロ さうぢや。

デズデ いや、さうは言はぬ筈ぢや。

オセロ いや、彼奴の口はもう塞つた。 忠義なイヤゴが處分をした。

デズデ おゝ！ さては！ もう死なしやれたか？

オセロ 彼奴の頭髪が一本々々悉く生命を有つてを つても、予の復讐心は慊らぬと思ふ程ぢや。

デズデ 悲しや！ あの仁は讒言されたのぢや、さうして此身も破滅となつたわ。

オセロ うぬ、淫婦め！ おのれ、予の面前で彼奴の爲に泣きをるか、うぬ？

デズデ おゝ妻を追出して下され、殺さいで！

オセロ 下にゐられ、淫婦め！

デズデ 明日まで待つて下され。今夜だけ生しておいて下され！

オセロ うんにや、抵抗ひをるならば……

デズデ ついたつた一時間！

オセロ 定つた上は猶豫はないわい。

デズデ でも一言祈禱を言ふうち！

オセロ もう遅いわい。

デズデ モーナを壓殺す。

エミリ (奥にて) 殿さま〜！ もうし〜！ 殿さま〜！

オセロ や、あの物音は？……まだ死なぬか？ まだ死にきらぬか？ 酷い子にも

慈悲はある、長う苦まいておきたうない。かう、かう。

エミリ (奥にて) もうし〜！ 殿さま〜！

オセロ むゝ、エミリヤぢや。……(奥にむかひて) 今すぐに。……(床を見て) 死んでしま

た。……キャシオの死んだことを知らせに來たのぢや。……えらい音がした

が。……や！ もう動かぬな？ 寂かに、墓のやうに。……呼び入れうか？

可いか知らぬて？……や、また動いたやうぢや。……ではない。……どうし

たらよからう？……入つて來たなら必定妻に物を言はう。妻に！ 妻！

妻とは！……予には妻はないのぢや。……おゝ堪へられぬわい！ おゝつ

らやの！ けふこそは怖しい月蝕、日蝕が同時に始まり、地球は怖れをのゝいて裂け開かう。

エミリ (奥にて) 申上げたいことがござります。殿さま〜！

オセロ つい忘れてをつた。おゝ、入れ〜。……待つた、今直ちや。……帳を引いておかう。……何處にをる？

錠を外して戸を開く。

何ぢや汝の用は？

エミリ おゝ、殿さま、あそこで非道な人殺しがござりました！

オセロ え、今？

エミリ つい今でござります。

オセロ そりや月の位置が狂うたからちや、常よりも月が滅切下界に近づいたによつて人間が亂心するのちや。

エミリ キャシオどのがロ德里ゴーといふ年若のニス人を殺さつしやりました。

オセロ ロ德里ゴーが殺された！ さうしてキャシオも殺されたか？

エミリ いえ〜、キャシオどのは殺されはさつしやりませぬ。

オセロ なに、キャシオは殺されぬ！……すれば人殺しの調子が外れた。心地よいと思つたのが無念と變るわ。

デズデ 冤で殺されたのちや、冤で！

エミリ はれ、何ぢや、あの泣聲は？

オセロ あのとは！ 何が？

エミリ あれまあ！ ありや奥さまの聲ぢや。……

寢床へかけよりて帳を開く。

あれい！ たれぞ来て下され！ おゝ、奥さま、もう一度物をおつしやれ！
デズデ モーナさま！ おゝ奥さま、物をおつしやれ！

デズデ 科もなうて死ぬるのぢや。

エミリ おゝ、だれが此様なことをしたのぢや？

デズデ だれもせぬ、妾の所爲ぢや。さらばぢや。わが夫へよろしう言うてたも。

おゝさらばぢや！

デズデ モーナ 息絶ゆる。

オセロ 何として殺されたのであらう？

エミリ あゝまあ、誰れが知らうぞ？

オセロ 予では無いと自身で言うたであらうが？

エミリ さうおつしやりました。此通りを人に知らせねばならぬ。

オセロ 女めは虚言を吐いたによつて焦熱地獄へ落ちをらねばならぬ。殺いたのは予ぢや。

は予ぢや。

エミリ おゝ、すりや奥さまは尙と天人で、こなたは尙と悪魔ぢや。

オセロ 不埒を働いた淫婦ぢや。

エミリ 虚言を吐かつしやれ、こなたは悪魔ぢや。

オセロ 彼奴は水のやうな浮氣な女ぢや。

エミリ こなたは火のやうな粗暴い男ぢや、奥さまを不義者ぢやなどといはつしやるは。おゝ、奥さまは天人のやうに眞實な方であつたものを！

オセロ おゝ、地獄の底までも墮ちうわい予は、若し正當な理由が無うて此様な思

ひ切つたことしようならば。一切の事は汝の夫に聞いた。

エミリ こちの人に！

オセロ 汝の夫ぢや。

エミリ 奥さまが不義をしてござると？

オセロ いかにも、キャシオと。いゝや、若し彼女が不義をしてをらなんだなら、假

令無瑕の黄金石を以て天が別の世界を造り、彼女と交換へうとあらうとも、

何で彼女を賣渡さうぞい。

エミリ こちの人か！

オセロ いかにも、真先に知らせてくれた。忠實な男ゆゑに、不義の所行を蛆蟲の

滑液ほどに憎むのぢや。

エミリ こちの人が！

オセロ 何でさう幾度も問ふのぢや？ いかにも汝の夫が。

エミリ おゝ、お方さん、悪者めが眞實を嘲弄しをつたのぢや！……こちの人が奥

さまをば不義ぢやなぞと。

オセロ いかにも、汝の夫が。分つたか？ 手に深切な、汝の夫の、忠義な忠實なイ

ヤゴ―が。

エミリ 若しそれが定ならば、我夫の大それた魂ひは日に一分づゝ腐りをせ！ ほ

んにまつかないな虚吐ぢや。何のく、奥さまは寧ろ惚過ぎてござつたのぢ

や、此見ともない男めに。

オセロ やあ！

エミリ 此上は思ふさま悪い事をしをれ。勿體ない事をしをつた、おのしが奥さま

につれさうてゐをつたも勿體ないことであつたが。

オセロ だまれ、黙つたが爲であらうぞ。

エミリ やい、おのしは予を如何しをる力もないのぢや。おゝ馬鹿！ おゝ阿呆！

泥のやうな物知らず！ おのしは、おのしは……劍なんぞが怖いものか。

此事を觸散らいてくれう、何の、二十たび殺されてもかまはぬ……たれぞ

來て下され！ あれい！ たれぞ來て下され！ ムーアは妾の奥さまを

殺いたわいの！ 人殺しぢや！ 人殺しぢや！

オセロ 寢床に伏して唸く。

モンタノー、グラシヤノー、イヤゴ―等出る。

モンタ 何事ぢや？(オセローに)何となされた！

エミリ おゝ、イヤゴードの、ござつたか？ お前はほんに聰明な人ぢや、他のした人殺しの罪を自己が身に負はつしやるとは。

クラシ どうしたのぢや？

エミリ (イヤゴードに)お前男なら、此奴に虚言ぢやと言うて下され。此奴はお前が此奴の奥さんが不義をしてござると言うたと言ひをる。予やそんな事はありやせぬと思ふ、お前はそんな悪黨ではない。言うて下され、予や胸がーばいぢや。

イヤゴ さう思うたから言うたのぢや、自身でも如何さまさうもあらうと思つてござらつしやつたことを言うたまでぢや。

エミリ したが、奥さまが不義をしてござると言ふことをは言はつしやつたか？
イヤゴ 言うた。

エミリ 虚言ぢや、ま、めつさうな、怖しい虚言ぢや、ほんに、虚言も虚言、非道な虚言ぢや。キャシオどのと不義ぢやなぞと！……キャシオどのとぢやと言はつしやつたか？

イヤゴ さうぢや、キャシオとぢや。さう、黙れ。

エミリ いゝや、黙らぬ、言はにやならぬ。奥さまが此處に床の中に殺されてぢや……

皆々 おゝ！

エミリ お前の言はつしやつた事が原となつたのぢや！

オセロ いや、かたぐ、怪まつしやるな。全く其通りでござる。

クラシ てもさても、不思議なことぢや。

モンタ おゝ奇怪な事ぢや！

エミリ こりやわるだくみぢや、わるだくみぢや、わるだくみぢや！……あの事を思

ふと、あの事を。きつとさうぢや。おゝ、わるだくみぢや！……あの時に
もさう思うたが。……予や悲しうてく寧ろ死んでしまひたい。……おゝ、
わるだくみぢや、わるだくみぢや！

イヤゴ えい、氣でもちがうたか？ 宿へ歸れ。

エミリ 皆さま、どうぞ妾に物を言はせて下され。夫の言葉に従ふが當然ぢやけれ
ども、けふは聴かぬ。……イヤゴどの、予やもう多分宅へは歸るまいわい
の。

オセロ おゝ！ おゝ！ おゝ！

オセロ！ 寢床の上に倒れ伏す。

エミリ さうぢや、突伏して唸きをつたがよい、はて、おのしは世の中に生きてゐた
最ち優しい罪の無い人を殺しをつたのぢや。

オセロ (起上りて) おゝ、彼女は不義をしたのぢや！…… (クラシヤノーに) 叔父上、こな

たぢやとは存せなんだ。あそこに姪御が臥てをりまする、其息根を止めま
したは、如何にも此手でござる。怖しい酷い振舞とも見えるでござらう。

クラシ 惘然なデステモーナ！ 先へ父御が逝かしやれたのを予は喜ばしう思ひ
まする。そなたの結婚は父御を憤らせ、老人の玉の緒を全二つに切る原と
なつた。若し存へてござつたなら、此有様を見て心も亂れ、果は善心を呪
ひ退け、如何なる墮獄罪を犯されたかも圖られぬわい。

オセロ いたましいことぢや。併し女めがキャシオと千度も不しだらを働いたこと
は、イヤゴーが存じをる。キャシオみづから白状致いたのでござる。まつ
た女めは吾輩が愛の最初の記念にとて與いたる品を以て姦夫の情に酬い
申した。現に男がそれを持つてをるのを見届け申した。我父が其以前母
に贈つたハンケチでござる。

エミリ おゝ天よ！ おゝ神々さま！

イヤゴ しつ、黙れ。

エミリ いゝえ、言ふ！ 言はいでかいの！ 予に黙れ！ いえく、黙らぬ、北風のやうに自由勝手に言うてのける。天も人も悪魔も、何が来て罵らうと叱らうと言うてのける。

イヤゴ 阿呆言はいで歸れ。

エミリ 歸らぬ。

イヤゴー 走り寄つてエミリヤを刺さんとする、グラシヤノー 遮る。

グラシ 何を！ 女に劍を？

エミリ おゝ、おのれ、ムーアの阿呆！ おのしが今言うたハンケチはな予が偶然と拾うて夫にやつたのぢや、あのやうな物には不似合な程に夫が熱心になつて盗んでくれいと頼ましやつたによつて。

イヤゴ うぬ、賣女め。

エミリ 奥さまがハンケチをキャッシュオどのに遣らしやつたと！ いえく、とんでもない！ 妾が拾うて我夫に遣つたのぢや。

イヤゴ うぬ、虚言を吐け！

エミリ 誓文 虚言は言はぬ、皆さま虚言ではござりませぬ。……(オセローに) おゝ、人殺しの阿呆め！ 此様な阿呆めに、勿體ない、あのやうな善良な奥さまを！ 天に石は無いか、雷の石の外に？ 極重悪人！

オセロー 堪へかれてイヤゴーに走り、ハゝる。イヤゴーは背後よりエミリヤを刺して入る。

グラシ や、女が倒るゝ。一定彼奴めが妻女を殺しをつた。

エミリ さうぢやく……。……おゝ、奥さんの側に臥かいて下され。

グラシ 妻を殺いて逃失せをつた。

モンタ おそろしい悪黨ぢや……。……これをお取り下され、只今ムーアの手から奪ひと

つた此武器を。さ、外にゐて戸口をお守り下され。通す位なら殺いたがようござる。身共は彼奴を追掛けませう、あの怖い悪漢めを。

モンターとグラシヤノーと入る。

オセロ 勇氣までも失うたか、少しく手に覚えある二才めは我劍を奪ひをる。あ、併し武人たる資格の廢つた身には武人の名も廢る筈ぢや！ かまうたことはない。

エミリ 奥さま、あの歌が前知らせになつたなあ！ これの、妾の言ふことを聴いてかいの？ 妾や白鳥の眞似をして歌を唱ひながら死にまする。(歌) 柳、青やぎぎ！……ムーアどの、奥さまは貞女ぢやつたに、酷いムーアどの、お前に惚れてござつたのに……何卒天へ昇りますやう、虚言は言ひませぬによつて。思ふ通りを言うて妾や死ぬるのぢや、死ぬるのぢや……

エミリヤ息絶ゆる。

オセロ 此間房にもう一口劍がある、スペインの氷河で鍛うた劍ぢや……お、こゝにある。……(戸外にむかひて) 叔父御、外へお出してください。

グラシ (奥にて) 出ようとしたら、一命にもかゝはらうぞ。武器を持つておゐやらぬからは負を取らねばなるまい。然らば先づ御覽なされた上で物をおほせられい、さもないと赤手ではござれどお敵手になりますぞ。

グラシヤノー又出る。

オセロ 御覽なされ、武器を所持してござる。これに優つた劍が武人の腰に帯ばれたことはござらぬ。身共は此瘦腕と此利劍とを以て、貴下の二十倍程の障害をも切開いて通つたこともござつたが……お、無益な高言ぢや！ 誰れが運命を支配することが出来る？……もはやだめでござる……はて、お

氣づかひなさるな、武器を持つてをらうと。これが一生の旅路の果、我船の最後の泊りでござる。……驚いて退却なさるか？ それは無用な恐怖ぢや。オセローの胸へ、つい葎を一本お向けなされても彼は退ります。……あゝ何處へオセローは行かうぞ？……(デズデモーナの屍に立寄りて)どのやうな顔をしてゐやるぞ？ おゝ、不運な女！ 襯衣のやうに蒼白うなつて！ 大審判の日に顔を合いたなら、卿の其顔の色が予の魂を天から奈落へ抛下し、夜叉めがそれを掴むであらう。おゝ、冷たい、冷たい！ 恰ど卿の操のやうに。……おゝ極悪人め！……おゝ夜叉よ、悪魔よ、此天人の姿を拜ませぬやうに予を笞で追拂へ！ 業風で予を吹廻いて、硫黄の炎で予を炙り、火の海で予を洗ひをれやい！ おゝデズデモーナ！ デズデモーナ！ 死んでしまふた！ おゝ！ おゝ！ おゝ！

ロテリゴ、モンタノ、椅子にて擔かれたるキャシオ等を先に立て、

役人共はイヤゴを召捕り引立てつゝ出る。

ロド井 不運な粗忽人は何處に居りまする？

オセロ それはオセローと申した男ぢや。これにをりまする。

ロド井 毒蛇めは何處に居りまする？ 彼奴を引出しめされ。

オセロ (イヤゴを覗みて) 彼奴の足元を見れども小説ぢや。まこと汝が悪魔なら、殺すことは出来まい。

唐突に走りよりてイヤゴを刺す。皆々驚きて引分ける。

ロド井 劍を腕取りめされ。

イヤゴ 手傷を負うたが、窮所ではござらぬ。

オセロ それを残念とも思はぬわい。汝はわざと生しておきたい、予は死ぬるはうが幸福ぢやと思ふによつて。

ロド井 曾ては善人であつた足下なれども、かやうに悪計に罹られた今となつては、

お、オセロー、何と足下を評し申さうやら？

オセロ

はて、何となりと。願はくば、名分を思つての殺人者と傳へて下され、私怨の爲ではなく、名分の爲にしたことでござる。

ロド井

(イヤゴを指し)此奴は略其悪計を白状いたいた。足下には此奴と相談して

キャシオを殺さうとせられたのでござるか？

オセロ

いかにも。

キャシ

將軍、拙者はお憎しみを受ける覚えはござらぬ。

オセロ

今はさう信ずる、予の粗忽を赦さつしやれ。……どうか其人鬼めに訊うて下され、何故其奴は予が魂ひをも肉體をも陥れうとしをつたかを。

イヤゴ

何も問はつしやるな。知るだけは知つてござるのちや。もう予や一言も言はぬ。

ロド井

何ちや、まう祈禱らせぬ？

グラシ

おのれ、今に拷問して言はせて見せう。

オセロ

(イヤゴにはて、それが當然ぢや。

ロド井

(オセローに)さて、事の顛末を申述べう、未だ御存じでござるまいによつて。……

これは殺されたるロ德里ゴが懐中から見出いたる書状でござる、まづたこゝにも一通。これにはロ德里ゴがキャシオどのを暗殺すべき旨を認めてござる。

オセロ

お、悪漢！

キャシ

無慚非道な！

ロド井

さてまたこれなるは不平たらくの書面、これもロ德里ゴの懐中より。

多分あの極悪人へ遣さうとて認めおいたものでござらう、しかるに其以前にイヤゴが參つて始末を附けたものと相見える。

オセロ

お、非道な奴！……キャシオ、どうしておぬしはあのハンケチを手に入れた

のぢや、妻のハンケチを？

キヤシ

自分の部屋で拾ひました。つい只今彼れが白状致しました所によれば、おのが望を遂げうために故意と落しおいたとの事にござる。

オセロ

お、馬鹿！ 馬鹿！ 馬鹿！

キヤシ

尙ロデリゴの書面中にイヤゴの罪を責めた文言がござる、それに據りますれば、夜詰の晩にイヤゴがロデリゴを教唆いたいて拙者に喧嘩をしかけさせ、それが爲に拙者は御勤當を蒙つたのでござる。つい先刻ロデリゴが息を吹返し、イヤゴが彼れを害せし事、教唆いたせし事を中立てゝござる。

ロド井

(オセロに)此上は此室を立出で吾等と同行せられねば相なりませぬ。足下の職權は取上げられ、キヤシオが代つてサイブラスを治むるのでござる。……まつた此奴めは、長う苦痛さする何か好い工夫もあらば、さやうの嚴刑に

オセロ

處するであらう。……足下は囚人となつて獄に下らねば相成らぬ、罪の次第をエニスに申達するまでは。……いざ、引立てい。

しばらく。お別れ申す前に一二言申したい儀がござる。吾等が國家に對

して幾何かの功勞ある事は、政府に於ても承知の筈……いや、それは最早申すまい……願はくは、吾等が此度の不運なる所行を本國へ中送らるゝ折、聊かも庇ふことなく、又聊かも誣ることなく、只有のまゝにお傳へ下され、分別こそは足らなんだれ、いと深う妻を愛した男と、たやすうは人を疑はねど、欺られて心亂れ、彼の無知の印度人の如く、其全族にも易へがたい眞珠を我手づから抛つたと、曾ぞ泣いたことのない眼でござれど、意氣地がなうなつて、アラビヤに生える木のやうに護謨液をばたくと垂し申すと傳へて下され。さて其通り書認められたならば、更に其以前、アンッポーに於て、頭帕を被つた土耳其人が無禮にもエニスを打擲しまつた我國を誹

誇ほいたいたる折をり、身共其夷どもそのえびすめの喉元のどもとを引ひ攔つかみ、まつこの如ごとく……

と短銃たけんにて唐突だしぬけに我胸わがむねを刺さし。

突殺つきころいたと傳つたへて下くだされ。

ロド井 お、無慚むざんな段落だんらく！

グラシ 打合うちあはせおいたることも悉ことごとく無効むたとなつた。

オセロ (デズデモーナの屍しがいに) 卿せうじを殺ころす前に接吻キッスをした。かうするより外ほかに仕方しかたもない。

自殺じさつをして、接吻キッスをしながら、死しぬるのぢや。

デズデモーナの屍しがいへもたれかゝりて息絶いきたゆる。

キャシ 氣象きしやうの高い人ひとぢやによつて、かやうなことを氣遣きつうてをつたのぢやが、武た

器ものを所持しよじしてござらうとも存ぞんせなんだ。

ロド井 (イヤゴーに) お、苦痛くつうよりも、飢うよりも、海うみよりも怖おそしきスバルタ犬いぬめ！ 此床このとこ

の無慚むざんな積荷つみにを見みれ。これ皆汝みなきさまの爲ためなことぢや、目めもあてられぬわい。

掩おほうて隠かくしませい。……グラシヤノーどの、其許そのもとは此家このいへにお留とどりあつて家財かざい

一切さいをお收めあれ、其許そのもとが相續さうぞくせらるべきでござる。……さて總督そうとくどのには

此惡漢このあくかんのお審判さはんを託たくし申もうす、時ときも場所ばしよも拷問がうもんの法はふもお心任こころまかせ、お、必かなずおぬ

かりあるな！ 吾等われらは直たちに船ふねに上のぼり、此慘事このさんじの顛末てんまつを本國ほんごくに傳つたふるでござらう。

皆みな々く入はいる。

皆みな々く入はいる。

オセロ (完)

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第七編)

テロペスト

この作は沙翁の絶筆だといはれてゐる。それに關しては卷末に譯者が多年の研究考察になつた一大論文を附録として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豊潤な、深刻な而も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味情調を殊にしたロマンチックな喜劇で、妖精が出る、半人半獸の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がない。

(五版) 寫眞版口繪入
木版密書多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

沙翁傑作集 (第八編)

アントニオとダレオポトラ

沙翁の偉大なのは其作の弱、出でて彌、傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて、全世界に君たらんか、熾烈なる肉の戀愛を全うせんかといふ大アレンマに逢着した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸て漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味も漲る。

(五版) 三色版口繪入
木版密書多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

發行所 早稻田大學出版部 東京 早稲田 牛込

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第九編)

眞夏の夜は夢

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない醉乎として醉な作である。先づ「テムペスト」に似たものだといへるが、若し時分の作だけに更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸である。五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的であり、調も夢幻的である。いろ／＼な妖鬼が頻に跳梁して恣に人間を翻弄する。人妖が錯綜するが、それが極めて自然である。理窟を全脱して、而も條理が整然としてゐる。艶情があり、滑稽があり、葛藤があり、悲喜がある。忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色。

(四版) 三色版口繪入
木版密書多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

沙翁傑作集 (第十編)

マクベス

所謂四大悲劇の一つで、沙翁が技術の圓熟期の作である。ドストエフスキの「罪と罰」の結構を更に雄大にし、さうして劇化したやうな名篇である。或は「ハムレット」以上「オセロ」以上「リヤ王」以上と稱せられる。特に本編には附録として譯者が「日本に於ける沙翁研究」を著し、その案及び上演の略誌を添へた。これは我國の沙翁研究の沿革を精査したもので、著譯者、其年順、書名、著譯者の名、發行所の名を明かにし、其上演に就いては、其年月、外題、譯者、俳優、劇場までも詳かにしてある。沙翁研究者の必讀を要する。口語體で譯されてあるだけに、所謂四大悲劇中では、これが一等讀み易いであらう。

(八版) 三色版口繪入
木版密書多數入
定價區五十錢
郵税 十二錢

發行所 早稻田大學出版部 東京 早稲田 牛込

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集

(第十六編)

お氣に召すま

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼れの喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。讀む者も自然と暢氣な晴々した心持になる。牧歌的」と特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜劇劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので、野外劇の脚本にもされる。清淨な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

沙翁傑作集

(第十七編)

ちやく馬劇ふり

沙翁立身前後に流行つた、フランス仕立の思ひ切つて蠻から式な喜劇の代表作である。其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷娘を難なく征服する段取に至つては更にをかしい。不思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場かは譏案された。本譯には例の挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部 東京 早稲田 牛込

坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集

(第十八編)

十一夜

既刊「お氣に召すま」の姉妹篇である。學生の同胞の女の方が故あつて男裝してゐるのが間違ひの種になる作意である。此間違ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價値は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌、出てて彌、無盡藏なことが分る。上品な滑稽、高雅な戲謔の上乗である。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部 東京 早稲田 牛込

全 六 冊 完 成

イブセン傑作集

四六判美本
口繪數葉入
各壹圓五十錢
郵稅各十錢

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 島村抱月譯 人 形 の 家 | 4 坪内士行譯 小さいアイヨルフ |
| 2 島村抱月譯 海 の 夫 人 | 5 坪内士行譯 野 鴨 |
| 3 坪内士行譯 羅斯メルスホルム | 6 坪内士行譯 ヘツダ・ガブラー |

發行所 早稻田大學出版部 東京 早稲田 牛込

選者

坪内逍遙
饗庭篁村
幸田露伴
島村抱月
水谷不倒

校訂新釋者

水谷不倒

(訂正再版)

各卷目次
申込次第呈

近松傑作全集

新釋
近松に關する空前の大著!

本書の選者たる五大家が近松文學精通の權威たるは言ふまでもなし。不倒氏が夙に意を近松研究に注ぎ、研究に到らざる所無く、近松通を以て一世に推さる、事は茲に嗚々するを要せず。五大家は幾多の研究討論を経て精を抜き粹を集め四十餘篇を選定したり。是等諸作中には非凡の傑作なるに拘らず全く後世に忘れられ、其版本の如きも殆ど全く湮滅して僅に一本を傳へたる珍品も尠しとせず。校訂、解題、註釋、挿繪及び五大家の序論等近松研究として些の遺憾なし。

菊全四卷 別註に釋の挿繪 二圖 餘百個
全四卷 各卷別註に釋の挿繪 二圖 餘百個
全四卷 各卷別註に釋の挿繪 二圖 餘百個

東京大學出版部 早稲田大學出版部

日本近代文藝の精華!

終

